

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：整形外科

コース責任者：藤井 幸治

研修期間：選択必修科（外科）として12週間のうち4週間
選択科として4週間から

I：一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

医師として望ましい姿勢・態度と基本的な診療能力を身に付け、整形外科疾患に関する基本的な知識と技術を身に付け、術前後の基本的な全身管理を習得することができる。

II：行動目標 (SBOs:Specific Behavioral objectives)

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 整形外科疾患に伴う、骨、関節、筋肉、神経系の診察ができ、正確な身体所見がとれる。
- 2) 回診は指導医または上級医とともに行う。また、全身を系統的に診察し所見を挙げるとともに正確に診療録への記載ができる。
- 3) 頻度の高い病態、疾患に関しエビデンスに基づいた標準的な診療方法を習得することができる。
- 4) 多くの緊急手術の診断、術後管理を行うことができる。
- 5) 多くの予定手術の術前術後管理を行うことができる。
- 6) 術前の説明による同意方法について、指導医または上級医に同席して習得することができる。
- 7) 助手として手術に入り整形外科基本手技と清潔操作を習得することができる。
- 8) 看護部、メディカルスタッフ、他科と良好な関係で診療することができる。

②主な基本的な臨床検査

- 1) 整形外科疾患診断に必要な検査の結果や所見について理解し、判断することができる。
【X線撮影法、特殊X線検査（CT、MRI、脊髓腔造影）、電気生理学検査、超音波検査、骨密度測定、骨シンチ など】

③主な基本的手技

- 1) 整形外科の基本的手技を理解し、実施することができる。
(簡単な切開・排膿、縫合、ドレナージ など)
- 2) 採血法（静脈血・動脈血）を実施することができる。
- 3) 注射法（皮内、皮肉、筋肉、点滴、静脈確保）を実施することができる。
- 4) 創傷処置・創部消毒を実施することができる。

- 5) 局所麻酔について理解し、実施することができる。
- 6) 軽度の外傷や熱傷への処置を行うことができる
- 7) 圧迫止血法・簡単な結紮止血法を理解し、実施することができる。
- 8) 周術期における創部の評価を行い、指導医または上級医のもとで当科独自の手技の実践及び介助ができる。
- 9) 皮膚縫合、副子固定、ギプス固定、手術手技など指導医または上級医のもとで行うことができる。
- 10) 整形外科手術に特有の透視下手術時の注意点、内固定に使用する金属、人工材料について理解することができる。

C. 主な症状・病態の経験

腰痛、膝関節痛、肩関節痛、足関節痛、股関節痛、脊椎外傷、外傷（四肢開放骨折など）、小児外傷、腰椎椎間板ヘルニア、脊椎障害、変形性関節症、関節リウマチ、小児整形疾患 など

III：学習方法（LS：Learning Strategy）

1) LS（方略）1：On-the-job training

■病棟業務

- ・主治医を含む指導医または上級医の指導のもと、OJTを中心とした診療に参加する。指導医または上級医とともに診断・治療にあたる。
- ・担当患者の医療面接、身体診察や検査立案を行い、SOAP形式で診療録に記録する。
- ・担当患者の一般撮影、CT、MRIの手技及び読影方法を学ぶ。
- ・患者および家族と良好な人間関係を確立できるように努力する。
- ・看護師、薬剤師、管理栄養士、事務などと協力し、診療することが出来るように努力する。

■外来業務

- ・整形外科外来にて初診患者の医療面接と診療記載を行い、指導医または上級医の指導のもと外来業務のシステムや手順を学ぶ。

2) LS（方略）2：カンファレンス・勉強会

- ・予定手術患者及び診断・治療に難渋している患者のカンファレンスに参加する。（毎週月曜日 夕方）
- ・指導医または上級医によって行われる整形外科疾患の診断・治療に対するレクチャーに参加する。

3) LS（方略）3：学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修（医療安全や感染対策など）に積極的に参加する。
- ・整形外科疾患に対する講演会や研修会に積極的に参加して知識を深めるとともに、学会

発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	外来	手術／ER	手術／ER	手術／ER
午後	手術／ER カンファレンス	外来	手術／ER	手術／ER	手術／ER

IV：学習評価 (EV：Evaluation)

PG-EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約（サマリー）は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約（サマリー）は、1週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、PG-EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。